

古杉 仁志（こすぎ ひとし）氏

Vivace FC 代表

一般財団法人 静岡県サッカー協会 中部支部 副理事長

◆サッカー歴

静岡市西豊田サッカースポーツ少年団

静岡市立高松中学サッカー部

帝京高校サッカー部（2,3年時、全国サッカー選手権大会2大会連続優勝）

東京都国体代表（3年時）

東京農業大学サッカー部

静岡県国体代表（成年の部）

◆指導歴

静岡 JFC コーチ

静岡トレーニング センターコーチ

静岡県トレーニング センターコーチ

静岡聖光学院 中高サッカー部

ヴィヴァーチェ サッカースクール

Vivace FC

◆資格

（公財）日本サッカー協会 公認B級コーチ

（公財）日本サッカー協会 4級審判

（公財）日本サッカー協会 キッズリーダー

（公財）日本サッカー協会 スポーツマネージャー資格 Grade2

◆掲載本

「ジュニアサッカーを応援しよう！」（2013年10月号）

「ジュニア Soccer clinic」（2015年4月号）

「Soccer clinic」（2016年8月号）

工島 丈春（くしま たけはる）氏

ドッキーズ 監督

1973年 生まれ、3歳から静岡市内のジュニア体操クラブで体操競技を始める

天理高校・天理大学体育学部卒業（体操部 スポーツ推薦）

大学卒業後、静岡市内の私立幼稚園に就職 幼児体育指導に従事する

1996年 自身の育った体操クラブで、体操指導をはじめ現在にいたる

1997年 勤務していた幼稚園の卒園児を対象に『kids 体操クラブ』を立ちあげ、幼稚園の地元地域の小学生に体操指導をはじめめる

2001年 『kids 体操クラブ』のドッジボールクラスとして、ドッジボールチーム『DOKKY'S』を結成する

2017年 私立幼稚園を退職（kids 体操クラブは閉館したが、『DOKKY'S』の活動は継続）

退職後、(株)ライフクリエイイト 取締役として

児童発達支援・放課後等デイサービス 『いるかくらぶ』・『いるかくらぶ BASE2』・『いるかくらぶ BASE3』
『イルカ²フェ』の業務管理責任者をつとめている

『DOKKY'S』は2021年結成20周年をむかえ

2021年11月 『全日本夏の小学生ドッジボール大会』で全国優勝（過去8回出場）

2022年3月 『全日本春の小学生ドッジボール大会』で準優勝（過去6回出場）

現在、約50名の選手・スタッフ6名で静岡市立麻機小学校体育館を拠点に活動中

ドッキーズ？

ドッキーズは2001年4月結成。

小学校が週5日制になり地域の子どもたちの育成や私の勤務している幼稚園の子どもたちへ「せっかく幼児期に体育あそびを経験したのに小学生の時期に活かす場所がない」という思いから週末（休日）の幼稚園を施設利用し「 Kids 体操クラブ 」をたちあげました。

その頃70名程の子どもたちが集まり毎週土曜日体操教室に通ってきました。私はある時、幼稚園での体育あそびにおいて「ドッジボールをどうしたら更に楽しい活動になるだろう？」と探究心が湧いてきました。その思いに縁があり私の母校の関係でドッジボールの勉強に奈良県に行きました。そこで出会った人、チーム関係者、特に子どもたちの取り組む姿勢に感動し、私もチーム作りをしたいと熱い思いで帰って来ました。そして「 Kids 体操クラブ 」で 体操クラス・ドッジボールクラスとしチーム結成のきっかけとなりました。

その後、楽しいドッジボール・勝ってみたい・大会エントリーと静岡県ドッジボール協会に登録する運びとなりました。ここまでの戦歴としましては、もちろん最初の頃は1勝することの難しさ。どうしたら勝てる??子どもたちと日々目標に向かってきました。

そんな子どもたちのがんばりや地域の人々の応援を頂き「チーム結成5年目に静岡県大会にて初優勝・夏の全国大会8回出場（2021 全国優勝）。春の全国大会6回（2021 全国準優勝）と大きな舞台をたくさん経験させて頂いております22年目のチームです。

私自身、3歳の頃から体操競技人生をおくってきていましたので国体出場・インターハイ出場・インカレ出場の経験を含め「県代表ってこんな素晴らしい経験ができるよ。全国大会ってすごいよ。」と私の過去の経験をドッジボールでも伝えられるのでわないか！！という思いがあります。せっかく出会った縁で子どもたちの人生の後押しをさせて頂いていることに喜びを感じている日々です。「子どもたちの何かに向う後ろ姿・前を向いている子どもたち」私は大好きです。

ドッジボールとは？

『ドッジボール競技の経緯』

小学校で行われているドッジボールは子どもたちのあそびとして浸透していて子どもたちに「ドッジボールをしようか？」と声をかけたら「やろう！」と声がかえってくる。

そんな人気のあるあそびがドッジボールです。

ドッジボールはみんなが知っている遊びですがスポーツとしては1991年に日本ドッジボール協会が発足し統一ルールが定められたことから活発になりました。この当初から全国4000を越えるチームができそれぐらい取り組みやすかったスポーツといえます。現在の活動では各地でドッジボール大会が開かれ、そして年2回の全国大会も開催されています。

そこに参加するクラブチームの多くは小学校の枠を越えて子どもと保護者が主体となって地域で子どもを育てる活動を行なっています。

『地域に密着した活動』

今、子どもたちを取り巻く状況は30年、40年前とは大きく違っています。年々運動能力が低下していると指摘されるのは伸び伸びと体を動かす遊びができず手軽に室内でパソコン・ゲームに興じるようになってきたからとも言われますが、目の届く範囲で遊んでくれることを親も安心できて歓迎している面もあるかもしれません。そこでドッジボールでは、子どもと一緒に見守る親同士のつながりもでき、子ども・チームを応援しようというふうに盛り上がってくるのも自然のなりゆきです。子どもにとっても親以外の地域の大人と交わる経験はしつけという面で大きな意味があります。公共のマナーに限らず友達関係も下の学年の世話をすることはもちろん自分のことは自分でするということも教えられます。

『ドッジボールでの子どもたちは！！』

練習において安全に仲間とドッジボールを楽しみ大会に参加し、競い合うだけでわくわくしてどんどん練習したくなります。ドッジボールは遊びではなくきっちりとしたルールに従ってスポーツとして行なわれることが判ってきたら子どもはすぐにルールを覚えます。「どうしたらうまくボールをキャッチできるか?」「速いボールを投げられるか?」大会に参加したり練習を通じて子どもたち自身が吸収していきます。また、子どもたちは勝ちたいに決まっています。負け続けたらおもしろくないと言い出すかもしれません。だからこそドッジボールがもっとうまくなりたいたいという気持ちのあらわれから努力すること・我慢すること・仲間とたすけ合うこと・自分に厳しくなることなど言葉では伝わらないことを経験します。

『チームの目標』

大会で良い成績を揚げることを目標に掲げることも時には必要かもしれませんが、子どもたちが「育つ・育った」ことが大切。

ドッキーズは強いチームではなく良いチームを目指します。

石崎 竜司 (いしざき りゅうじ) 先生

静岡県立こども病院 脳神経外科 診療科長

◆経歴

1994年	京都大学医学部 卒業
1994年	京都大学医学部附属病院脳神経外科
1995年	社会保険小倉記念病院脳神経外科
1997年～2001年	京都大学大学院（医学博士号取得）
2001年	滋賀県立成人病センター（現：滋賀県立総合病院）脳神経外科
2005年～	静岡県立こども病院脳神経外科
2011年	トロント小児病院 短期研修
2022年4月～	静岡県立こども病院脳神経外科 科長

◆資格

医学博士
日本脳神経外科 専門医
日本脳神経外傷学会 指導医
日本神経内視鏡技術 認定医
日本小児神経外科学会 認定医
JATEC provider
PALS provider
日本体育協会 公認スポーツドクター